

| | |
|----------|--|
| 活動名 | 半文半理ワークショップ reunification of natural and social sciences |
| 代表者氏名・所属 | 柳川由布子(生活科学部食物栄養学科 2年) |
| 構成員氏名・所属 | 市木祥子(理学部生物学科 4年) 細田絵奈子(理学部生物学科 4年) 平石綾香(文教育学部言語文化学科 4年) 米村真季(生活科学部食物栄養学科 2年) 小林萌美(文教育学部人文科学科 1年) 塩越美春(生活科学部食物栄養学科 1年) |

文理分け隔てなく関わりを持ちたいと思う学生が集まって作られた半文半理は、2年連続でワークショップを開催しました。今年度は、参加者の体験と意見交流を図る「気づきの共有ができる場」の構築を目的に、2つのテーマを設定しました。「講義でライフスタイルを見直すことで交流を促す企画」と「学外活動での一体感から交流を促す企画」です。学生が自由な発想を具体化させた何十もの企画案から選別したものを実施しました。

講義は題材を漢方とした「朝スッキリ起きられる 漢方でセルフマネジメントのススメ」に講師・増田美加様、渡邊賀子様をお招きし、講義に体験を交えることで意見交換ができる工夫を凝らしました。11月27日実施、参加した学生は30名でした。事後の懇親会では講師と学生が活発に交流している様子が見られました。

学外活動として江の島で「自腹 de 江の島遠足」と題したワークショップを実施しました。江の島で半文半理の学生自らが関心を持ったことを調査、道程を決めて案内をしました。11月30日(土)に開催、学生10名、そのうち留学生6名が参加し、多様な側面から江の島を見ることができました。

「気づきの共有」を図る工夫の結果、漢方に触れた感想を言い合う空間、江の島では参加した学生同士が、自分の知識から教え合う姿も見られました。SNSを活用したことで、新たな交流が生み出され、メンバーも増えました。参加者に振り返りができるよう、両企画で冊子を作成・配布し、その場限りの体験では終わらない学習や交流を促しました。



今年度のワークショップ開催では、賑やかな雰囲気をつくり、個々人の関心を高めることができました。これによって「気づきの共有」という目標は達成したと判断しました。また企画・実施でも、メンバーが増えたことでお互いの多様な関心・体験を言い合い、耳を傾けて、幅広い知識が身につきました。普段大学では専門分野を究めている分視野が狭くなる傾向があることも発見でした。だからこそ、他者を尊重して信頼し、協力する必要性があるのだとも学びました。